

韓国を中心としたアジアの短編アニメーション映画の上映会「花開くコリア・アニメーション2018+アジア」が四、五の両日、名古屋・栄の愛知芸術文化センター十二階アトスペースで開催される。愛知淑徳大交流文化学部の学生が、今回初めて字幕翻訳や通訳で協力し、催しを盛り上げる。

(古谷祥子)



字幕 愛知淑徳大生

韓国映画の自主上映団体「シネマコリア」などが主催し、今年で九回目。昨年の上映会を同大交流文化学部のチョ・スルソップ教授が訪れ「一緒に面白いことを」と協力が決まった。シネマコリアの西村嘉夫代表(五)「尾張旭市旭台」は、「学生に早いうちから責任ある仕事を体験してもらう機会に」と話す。

四日に上映するカン・ヒジン監督の「お婆の海」と「お守りの意味」の字幕翻訳を、韓国語専攻の十八人が分担。同大で映像翻訳講義を持つ翻訳家の三重野聖愛さん(三)もが監修した。韓国の海女文化や民間信仰を紹介する作品で、台本を和訳した二年の安藤楓恋さん(二)は「辞書で調べても出

「花開くコリア・アニメーション2018+アジア」で、韓国語の字幕翻訳や通訳を務める学生ら。名古屋市中種区の愛知淑徳大星が丘キャンパスで

アジアのアニメ上映会 通訳でも協力

てこない言葉があり、難しかった」。和訳を字幕にする作業を担当した三年の瀬辺楓さん(三)は「せりふに合わせた必要最低限の言葉しか入れられず、文法の順番を入れ替えるなどして工夫した」と語った。

学生はカン監督のトークイベントの通訳補助や司会も担当する。通訳を受け持つ三年の坂野まきほさん(三)は「今回をきっかけに、将来は通訳を目指せたら。まずは全力を尽くしたい」と意気込む。

二日間で計四十三作を上映。今年の米アカデミー賞短編ドキュメンタリー部門にノミネートされた桑畑かほる監督の「Negative Space」もある。鑑賞料は八十一作品に分けたプログラムごとに、一般千円、高校・大学生五百円。中学生以下は無料。◎シネマコリアの西村代表「090(1863)7855」

2018年8月2日(木) 中日新聞16面より
この記事は中日新聞社の承諾を得て転載しています。